

発行所（郵便番号100）
東京都千代田区丸の内2-4-1
丸の内ビルディング617号室
社団法人スウェーデン社会研究所
Tel (3212) 4007・1480
Fax (3212) 1447
編集責任者 岡 沢 憲 美
印刷所 関東図書株式会社
定価200円（年間購読料参千円）
1991年7月25日発行
第23巻 第7・8合併号
（毎月1回25日発行）
昭和44年12月23日第3種郵便物認可

スウェーデン社会研究月報

Bulletin Vol. 23 No.7・8合併号

Japanska Institutet For Svensk Samhallsforskning
(The Japanese Institute for Social Studies on Sweden)
Marunouchi-Bldg., No.617. Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan.

カールソンかビルトか：9月総選挙と政局の行方

Ingvar Carlsson or Carl Bildt?

常務理事 早稲田大学教授 岡 沢 憲 美

Prof. Norio Okazawa

スウェーデンの政党政治は大きな安定性で定評がある。20年代に形を整えた主要政党が今日でもそのまま議会で議席を確保している。この5党システムは穏健な多党制と呼ばれているが、前回選挙で「環境党・緑」が議会進出を果たして伝統の一角が崩れた。9月選挙では本格的な地殻変動の兆しが見られそうである。挑戦者は「新民主党」[キリスト教民主同盟]である。この二党が議席を確保するような事態にでもなれば7つの政党が議会政治を運営することになる。「環境党・緑」は低迷しているので議席維持は困難であろうが、もし後半に追い上げが成功すれば実に8つの政党が議席を持つことになる。

EC加盟をにらんだ経済政策、企業国際競争力の向上、高福祉政策と税制の見直し、肥大したパブリック・セクターの縮小、民営化の促進、エネルギー政策と環境問題、などが主たる争点である。ところで、発表されている世論調査では、①社民党の大幅後退と②穏健統一党の大躍進、③新党の議会進出が予測されている。7つとか8つの政党が議会進出を果たせば伝統的なブロック政治の枠組みを根底から再編成する必要に迫られるであろう。問題は、政党の異常繁殖によって、政権樹立・運用作業が難しくなることである。

社民党の後退が予測されているので、最大政党でも30%台政党になる可能性が強い。その一方で、政党の数が增えるので、連合形成ゲームが一層難しくなる。理論的可能性の問題としては、中立政

策棚上げ→EC加盟という難問に直面するのであるから、①「平時・挙国一致連合政権」、も選択肢の一つである。より現実的選択は、②「ブルジョワ・ブロック絶対多数連合政権」で、穏健統一党+国民党・自由+中央党+キリスト教民主同盟の4党で構成される。穏健統一党のビルトが首班ということになる。議席数では十分な強さを備えた政権になりそうであるが、政局運用という点で大きな不安を残すことになる。70年代後半の経験からも類推されるように、中央党が独自色を出そうとして非妥協的な路線に踏み出す可能性が強い。それを避けるのであれば、③穏健統一党+国民党+キリスト教民主同盟で構成される「右派相対多数連合政権」。この政権は、家庭政策で国民党・自由が若干違ったスタンスを取っているが、基本的には、イデオロギー距離が小さい政党による連合であり、相対的な強靭さを期待できる。ただし、世論調査を見る限り、過半数確保に遠く、政局運営が困難となりそう。EC加盟に伴って市場経済指向の改革政治を急ぐ必要があるので、政局運用技術を備えた政権が要請されるとしたら、④カールソン首班の「社民・国民連合政権」が最も望ましい選択肢かもしれない。いずれにせよ、選挙結果は単純であるが、政権形成作業は複雑になると予想される。その意味で、真の勝者と敗者を識別することが難しく、選挙後まで関心を引き付けそうである。

楽しくてやがて...

Elders in Sweden

会員 三瓶 恵子

Ms. Keiko Kjellsson-Sampe

1. お年よりのデモ

6月4日冷たい雨が降りしきるなか、スウェーデン全国から集まった7000人のお年よりの人たちがストックホルムでデモをした。これは今年に入って家賃が急上昇したのにもかかわらず、市町村から支給される住居費援助手当の引上げがそれに追いつかず、お年よりの人たちのタイトな家計に大打撃を与えていること、診察料の引上げや手術の待ち時間の延長など医療関係の福祉が悪化していることなどに対する抗議デモである。

従来「清く正しく(?)つつましく」年金だけで暮らしていたお年よりの人たちが生活保護を受けなければならなくなったケースもふえているそうである。生活保護を受けることをいさぎよしとしない、つまり「私は一生懸命働いて税金を収めてきた。その年金で生活できないのはおかしい!」と、生活保護を受けることを勧めるソーシャルワーカーに反発するお年よりも多いと聞く。デモのプラカードにも「我々のほしいのは生活保護ではなく年金の充実だ!」とか、「(順番待ちの)番号札では何も治らない」などというスローガンが多かった。

2. 年金で足りるのか

ノード銀行の行った調査(注1)によれば今年に入って全国の市町村(コミュニティ)のうち半分以上のところでは年金生活者の経済が悪化している。これは市町村から支給される住居費援助手当があまり引き上げられなかったことと、ホーム・ヘルパーに年金生活者自身が払う費用がおもな原因となっている。しかし、今年から適用されている所得税減税のおかげで、住居費援助手当がかなり引き上げられたところや、ホーム・ヘルパーが無料のところなどでは、逆に年金生活者の手元に残るお金がふえているところもある(ストックホルム郊外のエストハンマルでは付加年金なしの年金生活者は去年に比べて月額490クローナ手元に残るお金が増えた。最大付加年金を持つ年金生活

者についてみると、スコネ地方のロンネビーでは月額390クローナ増えている)。

従ってお年よりの経済は、スウェーデン国内のどのコミュニティに住むかによってずいぶん違ってくるということがわかる。

表1 付加年金なしの年金生活者の生活費(月額、クローナ)

	エッケレ	ノーダスティーグ
年金および国から支給される低年金補助	4030	4030
市町村から支給される住居費援助手当	2450	1730
収入合計	6480	5760
家賃	2530	2530
生活雑費	3110	3110
ホーム・ヘルパーの費用	0	500
支出合計	5640	6140
残高	+840	-380

(出所: ダーゲンス・ニーヘーテル紙1991年6月10日付け)

表2 2.5ポイントの付加年金を持つ年金生活者の生活費(月額、クローナ)

	ソルナ	ティールブ
年金	6600	6600
所得税	-1200	-1200
市町村から支給される住居費援助手当	1570	580
収入合計	6970	5790
家賃	2530	2530
生活雑費	3110	3110
ホーム・ヘルパーの費用	170	420
支出合計	5810	6060
残高	1160	-270

(出所: 表1に同じ)

表1、表2は付加年金なしの年金生活者の生活費と、最大の付加年金を持つ年金生活者の生活費をそれぞれプラス・マイナスの差の大きい二つの市町村の例を上げて示したものである。付加年金

なしの年金生活者の場合（一人暮らし）は、ストックホルムの中のエッケレーでは840クローナ残るのに対し、ヘルシングランド地方のノーダンスティーングでは380クローナのマイナスになってしまう。最大の付加年金を持つ年金生活者の場合（一人暮らし）は、ストックホルムの中のソルナでは1160クローナ残るのに対し、ウプサラ郊外のティエルクでは270クローナのマイナスである。

現在の基礎年金は月額2576クローナ、低年金補助は月額1449クローナである。ノード銀行の計算では2Kのアパートの家賃を2530クローナとしている。生活雑費は社会庁の標準額とのことだが、物価の高いストックホルムに住んでいる私にはかなり低い数字のように思える。たとえば、美容院で髪を染めたりパーマをかけたりすれば軽く700クローナは飛んでしまうのである（お年より割引のある良心的な美容院も少なくないが）。美容院にいき、歯医者にかかり、テレビ視聴料、電話代、新聞代などを払ったらもう食費は残らないだろう（書いていて背筋が寒くなるが…）。一人暮らしは高くつく。夫婦二人揃っていれば一人当たりの年金額は多少減るものの支出もかなり押さえられる。連れ合いは大事にしなければならないようだ。

3. 元気なお年より

ヨーテボリィで大々的に行われた老化についての調査研究（注2）では、お年よりが年々「元気になってきている」事が示されている。とくに80歳未満の「若い」お年より達は活力に溢れているのだそうだ。しかしその中で、配偶者を失うことが活力をなくす大きな原因となるということもまた示されている。

私の個人的な体験でも、65歳（あるいは60歳から年金早期受給者になった人々）から75歳くらいまでの知り合いは、長い間働いてきて待ちに待った年金生活を好きなことをして楽しむことに忙しいという人達が多い。

それ以上の高齢のお年よりの知り合いがいないので具体的な話が聞けないのだが、上述の調査研究や新聞記事などを読むと、連れ合いに先立たれ、子供や孫に会うことも間遠になり、体のあちこちが軋んでくる上に、インフレや貯金の目減りなどで経済的に苦しくなるというダブル・トリプル・

パンチを受ける人が多いようだ。そのような「より年とった」お年より達にもっとケアの手を差し延べるべきではないかと思う。

4. 年金生活者の組織

上述のデモの主催者はSPF（Sveriges pensionär förbund、スウェーデン年金生活者連盟）である。SPFはスウェーデンの2大年金生活者組織のうちの一つで123000人のメンバーを持つ。もう一つの年金生活者の組織PRO（Pensionärernas riks-organization 年金生活者全国組織）は375000人の加盟者を持ち（注3）、両方を合わせるとスウェーデンのお年よりの組織率は約25%になる（注4）。両方の組織とも原則的には中立だが、PROは社民党系、SPFは野党系で、長年の試みにも関わらず一つの組織になることができないのだそうだ。合同組織を作ればお年より達の意見をもっと直接政策に反映できるような強力な団体になると思うのだが。

ここ数年のスウェーデン経済の悪化と、その原因となった社民党の拙策に愛想を尽かすお年より達も多くなってきているそうだ。得票源のお年より達の指示を失ってしまえば、今年9月の総選挙で社民党が勝つことは望めないだろう。しかし、野党連合政権ができたとしても、果たしてお年よりの生活が良くなるのかどうかは疑問である。ともかくにもここまで福祉政策を維持してきたのは社民党だからだ。お年より達はスウェーデンの将来の道の選ぶ鍵を握って、今迷いに迷っている。

注1 ダーゲンス・ニーヘーテル紙1991年6月10付けに引用。

注2 バーサ病院のアルバル・スパンボリィ教授を中心に行われた研究プロジェクト。三瓶恵子訳「活力と健康」、社会保障研究所『海外社会保障情報』no.90～92参照。

注3 SPF、PROのメンバー数＝ダーゲンス・ニーヘーテル紙91年6月4日および5日付けより。

注4 1989年12月31日付けのスウェーデンの60歳以上人口は1947736人である。65歳以上人口は1517620人で、こちらの数字をもとにお年よりの組織率を計算すると約33%となる。Folkmängd 31 dec 1989, SCB 1990

ある夏の日

en tidig sommardag

スウェーデン語講師 中山 庸子

Mrs. Yoko Nakayama

スウェーデンの夏は早い。冬が終わったかな?という1週間で過ぎると、もう人々は「ソンマル(夏)」ということばを口にする。ひょっとしてこの「ソン」「マル」という音が喜びのバイブレーションをもって空中に拡がると、ほんとに夏が一步近づいてくるのではないか、これは夏を早く呼ぶための呪文ではないかと、思えてくる。気の早い人は、まだ肌寒いのもかまわず、太陽に向かって陽なたぼっこする。公園のベンチで、丘のゆるやかな坂に寝そべって。太陽の暖かさを感じ取ろうと感覚を磨ぎすます。すると体のなかを流れる血液の存在を自覚する。そして生命の営みを肯定してくれる太陽の愛を受け入れる。

わたしは今、ストックホルム駅から歩いて10分のところにある公園、クングストレッドゴーデンのベンチに座っている。すれ違うどの顔も夏への期待に輝いてみえる。「ヘイ(やあ)！」という声が飛んできた。声のほうを見るとアジア系の、5歳くらいの女の子がスウェーデン人らしいお父さんお母さんと両手をつないでこっちを見て微笑んでいる。韓国から養女として来た子に違いない。自分とよく似た黒髪の私を見てあいさつしたくなったのだ。「ヘイ！」この子も昨日のバイト先でスウェーデン女の心意気をみせてくれたエバのように元気な女に育つだろうか。

エバは「自分の身ひとつで完璧だ、過不足なし」という他者に依存しない人生設計をもっている。現在の自分にとって家庭科の教師になるため勉強するのが一番大切だからと、近いうちに学校のある町に引っ越すのだと言っていた。いっしょに暮らしているボーイフレンドとはしばらくの別れになるのは残念だけど、と。その力強さ。自分の人生は自分で責任をもつのが当然という、その自信。他者を尊重し、周囲の状況に合わせて自分の態度を決めることしか学んでこなかった日本人女のわたしとはなんという違い。「わたし知らない。できない。」恥ずかしいとも思わずにそういったのは何年まえかしら。そんな日本文化の産物でも少し加工すればおもしろいものができるだろうと思って、この異国の社会を眺めている。

そういえば、おとついの会話もおもしろかった。テレビドラマで自分の立場を明らかにしようとしてけんかばかりしている主人公の若い男。わたしは「彼は確かに正しいけどあんなに怒って、いやね」といったら、職場のジャスティンは「怒るのは必要な、いいことなのよ」と言っていた。「和」の社会、日本。そのよさと、思ったとおりの表現をして、裏がなくわかりやすいスウェーデン社会をカクテルにしたら、どうなるかな。そんなことを考えて公園を歩いていたら、通りすがりの男があじさいのような青い花を一輪差し出して「きれいだろ?あげる」といった。その白い肌とイントネーションからフィンランド人だと思った。「きれい。ありがとう」そういったときはもうすでにその男は背中をみせていた。

その日は特別、夏の気配のせいで、ありがたい自分を明るく生きてみた人が多かったのだろうか。

<会員の皆様へお知らせ>

★ ラジオ放送のお知らせ

去る7月3日、NHK文化センター主催による丸の内文化フォーラムにて『長寿社会を展望する～経済大国から生活大国へ～』と題し、岡沢憲美早稲田大学教授による講演会が実施されました。

この講演会の模様は、NHKラジオ第2放送にて来たる8月18日(日)21:00~22:00と8月22日(木)午前11:00~12:00に再放送がされる予定です。

長寿社会、高齢化社会の本格的な到来に際して、実験国家と言われるスウェーデンを参考にしながら日本の採るべき道、その政策のあり方を提唱したものです。人が長寿になる、あるいは社会が高齢化す

ることの意味を21世紀に向けてもう一度捉え直そうというもので、そのための指標が具体的に取り上げられ、説得力をもって展開されていきます。福祉国家の意義が何処にあるかを分かり易く解説されています。是非お聴き下さい。

★ 新刊紹介

皆様には既に御存じの事とは存じますが、上記の記事でもご紹介致しました当研究所常務理事でもあられる早稲田大学教授岡沢憲芙氏が岩波書店より新書『スウェーデンの挑戦』を刊行なさいました。ポスト冷戦の時代を迎え、新しい試みの一つとして、EC加盟という歴史的な選択による路線変更を行おうとしています。このように、常にその話題性に富んでいるスウェーデンについて、現在に至るまで試みられてきた模索の全体像をこれからの動向も交えながら論じられています。そして、そのユニークな特徴を時代・理念・制度・課題といった観点から詳しく把握することができます。また、巻末に付された年表と引用参考文献とはさらなるスウェーデン理解のための貴重な資料です。

ここで、新書の構成を目次でご紹介します。

序章 いま、なぜスウェーデンか

第1章 貧しい農業国から豊かな先進福祉国家へ —19世紀末～1960年代—

第2章 福祉社会の理念と構造

第3章 スウェーデン政治のメカニズム

第4章 苦悩する生活大国 —1970年代以後—

終章 どこへ行く「未来社会・スウェーデン」

ラジオ放送の講演会と併せて新書をお読み戴ければ、スウェーデン社会へのより一層の理解と我々の日本社会の歩むべき未来への具体的な道しるべを見ることが出来るかと思われまます。

The Swedish Institute 発行

Current Sweden の目次一覧 (13)

スウェーデンの政治、経済、文化などあらゆる方面のトピックスを速報するThe Swedish Institute 発行のCurrent Sweden 最近号の目次をご紹介します。(Vol. 20 NO 9につづく)。

内容についてのご照会には、当研究所も可能な限りお答えいたします。(事務局)

NO.	Date	Title
No361	MAY 1988	ELECTION YEAR '88 SWEDISH FAMILY POLICY AND THE ELECTION THIS AUTUMN by LILLEMOR MELSTED
No362	MAY 1988	ELECTION YEAR '88 TIME FOR AN ENVIROMENTAL ELECTION? by HANS STRANDBERG
No363	MAY 1988	ELECTION YEAR '88 ECONOMIC POLICY AND THE ELECTION by MATS OLOFSSON
No364	JUNE 1988	THE HIV / AIDS SITUATION IN SWEDEN by DAVID FINER
No365	AUGUST 1988	THE IMAGE OF THE CHILD IN THE SWEDISH CINEMA by BIRGITTA STEENE
No366	OCTOBER 1988	NEW LEGISLATION IN SWEDISH FAMILY LAW MODERN LEGISLATION FOR MODERN PEOPLE by BO BENGTOON

- No367 OCTOBER 1988 ELECTION YEAR '88
SOCIAL DEMOCRATS STILL GOING STRONG
--INCORPORATING THE GREEN WAVE?
by HANS BERGSTRÖM
- No368 JUNE 1989 WORKING HOURS IN SWEDEN
TRENDS AND BACKGROUND TO THE CURRENT DISCUSSION
by GISELA PETTERSSON
- No369 JUNE 1989 WOMEN'S PARTICIPATION AND EQUAL OPPORTUNITIES
POLICES
by MAUD LANDBY EDWARDS
- No370 SEPTEMBER 1989 ACCIDENTS TO CHILDREN CAN BE PREVENTED
CHILD SAFETY PROMOTION WORK IN SWEDEN
by MATS KLOCKLJUNG
- No371 FEBRUARY 1990 POLICIES FOR EMPLOYING YOUNG PEOPLE
by LOIS RECASCINO WISE AND BJÖRN JONZON
- No372 MARCH 1990 LEARNING TO LIVE WITHOUT NUCLEAR POWER
SWEDEN'S DECISION TO PHASE OUT ITS TWELVE REACTORS
IS PUT TO THE TEST
by AL BURKE
- No373 APRIL 1990 THE SWEDISH THEATER MODEL
by MATS SYLWAN
- No374 JUNE 1990 ALCOHOL AND TRAFFIC SAFETY IN SWEDEN
by HANS LAURELL
- No375 OCTOBER 1990 THE SWEDISH TAX REFORM: HOW WILL IT AFFECT THE
ECONOMY?
by BO SÖDERSTEN
- No376 JANUARY 1991 WASTE MANAGEMENT IN SWEDEN-A PROBLEM AREA WITH
MANY SOLUTIONS
by STAFFAN MODIG
- No377 FEBRUARY 1991 BIOTECHNOLOGY REVOLUTIONIZES THE DEVELOPMENT OF
PHARMACEUTICALS AND DIAGNOSTICS IN SWEDEN
by JANET SUSLICK
- No378 MAY 1991 ECOLOGICAL LIVING IN SWEDEN-IDEAS AND PRACTICAL
EXPERIENCE
by ROBERT ERONN

目 次

カールソンかビルトか：9月総選挙と 政局の行方……………	岡 沢 憲 美… 1
楽しくてやがて……………	三 瓶 恵 子… 2
ある夏の日……………	中 山 庸 子… 4
〈会員の皆様へお知らせ〉……………	4
Current Swedenの目次 (13)……………	5